

事例紹介

埼玉県蓮田市立 蓮田中央小学校

家庭学習サービスで、 学習の機会を増やす！



蓮田中央小学校は、PC機器の導入研修会でeライブラリの家庭学習サービスを知り、すぐに運用を始めました。運用開始の手順や、保護者への案内の工夫を紹介します。

運用 自主学習のための1手段として

家庭学習サービスの運用開始の手順や運用方針について、宮内一男校長先生と教務主任の茂見知宏先生にお話を伺いました。



宮内 一男 校長先生のお話

「家で勉強してみようかな」と思った児童がすぐに学習できる機会を作りたいと思い、家庭学習サービスを始めました。eライブラリは学力向上のために蓮田市で導入している教材のため、有効に活用したいと思っています。

社会環境の変化を踏まえて、ICTを学力向上にどう活かすか、そしてICTをツールとして活かせる児童をどう育てるかが今後の課題だと考えています。

● 運用開始の流れ

「**料金の負担もないし、まずはやってみよう!**」という宮内校長先生の一言から、運用が始まりました。

1 児童の名簿を登録

2 案内プリントを配布

3 IDカードを配布

4 保護者向け説明会

ポイント!

プリントやIDカードはサポートサイトからダウンロードして、簡単に作成できます。

ライズ eライブラリ アドバンス 家庭学習サイト

アドレス: <https://kateikodomo.ne.jp/>

学校コード

児童ID

パスワード

年 組 名前

※パスワードはほかの人におしえないようにしましょう。

■ IDカードは失くさないようにラミネート加工して配布しました



■保護者向け説明会の様子

● 運用のねらい

意欲をもった児童が自主的に学習するためのツールとして、家庭学習を案内しています。強制ではないことでPCがない家庭に配慮すると共に、「**宿題と違い、自らの意欲・意志で自由に学ぶことにねらいがあります**」と茂見先生。あくまでも学習の1つの選択肢として自然と普及させることを目指しており、保護者にもPRしすぎないよう心がけているそうです。



運用 家庭学習への関心を高めるには

児童や保護者の家庭学習サービスへの関心を高めるため、案内や声掛けに様々な工夫をしています。

● 保護者も説明会で体験

IDカード配布直後の学校公開日には、保護者向けに家庭学習の説明会を行いました。土曜日ということもあり**100名以上が参加を希望した**ようで、**保護者の関心の高さがうかがえます**。

参加者は交代でPC教室に入り、家庭学習の操作を体験しました。ドリルやカード帳を見た保護者からは「これなら楽しそうだからやるかもしれない」と前向きな声があがりました。



■廊下で順番を待つ保護者も出る盛況ぶりでした

● 「頑張ってるね」の声かけも

学校ホームページにも家庭学習サイトのバナーを張り、そこから学習できるようにしています。バナーの下の「蓮田中央小学校からのお知らせ」内に、**時期に合わせた内容で家庭学習を呼びかけるメッセージを載せる**こともあるそうです。

また、茂見先生が定期的に学習履歴を確認し、よく学習している児童に、担任を通して「頑張っているね」と声をかけるといった工夫もしています。



家庭学習を呼びかけるメッセージを載せることも！

教務主任 茂見 知宏 先生のお話

家庭学習サービスは、使わない家庭や使えない家庭もあるため、**あくまでも自主学習のための1教材と位置づけて案内することが大切**です。学校や家庭への料金負担もないため、案内してマイナスになるものではありません。ちょっと試してみようかな、と思う児童が少しでも増えることを願っています。

前の学年の内容やまだ習っていない内容にもゲーム感覚で気軽に挑戦できるため、**自主学習の幅が広がった**ように感じています。



授業 まとめや宿題で、プリントが活躍

単元のまとめや宿題に、小学校プリントパックを活用しています。

● 職員室で、手軽に印刷！

単元のまとめや宿題に、単元別プリントを使って習熟を図っています。解答プリントで児童が自分で答え合わせをしたり、特別支援学級で低学年のプリントを使ったりと場面に合わせて使い分けています。

「職員室のPCから気軽に印刷できるのがポイントです」と茂見先生。特に高学年の理科・社会の単元別プリントが先生方に人気だそうです。

